県政ティーミーティングに寄せられたご意見への対応状況について

（令和６年７月１日開催）

１　開催概要

・開 催 日　　令和６年７月１日(月)　11:00～12:00
・会　　場　　県庁３階　特別会議室
・参加グループ　特定非営利活動法人 食育体験教室・コラボ
・懇談内容　　「生きる力を育てる」食育推進

２　参加者のご意見の概要とご意見に対する対応状況

（１）学校における食育の実践について

（ご意見の概要）

・食への意識が低いまま社会に送り出されてしまう若者たちが、社会の中でたくましく優しく生きていけるのかということに危機感と不安を感じる。先生方の負担が増さないように、地域の食育ボランティアの人たちの力を借りて、高校家庭科で「自炊塾」を取り入れることはできないのか、県立大学の単位の一つとして協力していただける先生はいないだろうかと考えている。

（知事の発言）

・自分たちが消費する食料やエネルギーがどうやって生産されるかを知らずに持続可能な暮らしは送れない。自然と調和のとれた暮らしに、食育は非常に関連している。

（ご意見への対応）

・公立大学法人長野県立大学は長野県とは別法人のため、カリキュラムに関することは大学が決定しているところです。県としては、いただいたご意見について長野県立大学に情報提供させていただきます。

［県民の学び支援課］

・高校の教科家庭では、自立した食生活を営むために食事と健康とのかかわりを中心に生涯を通して環境に配慮した健康で安全な食生活を営むために必要な知識と技能を効果的に身に付けることができるよう、調理実習や実験を中心とした学習活動を取り入れながら授業を実践しています。例えば、地元の食材を利用した調理実習や郷土料理の実習、学校で収穫した食材を使用しての調理実習等を実施しています。
・家庭科の授業の食生活に関連する単元の中で、高校からの希望があれば、外部講師を活用した授業としてご参加いただくことは可能です。

［学びの改革支援課］

（ご意見の概要）

・学校の先生も忙しく、食育活動の取り組みが広がっていかない。例えば「信州環境カレッジ」のような仕組みであれば様々な団体による体験型の学校も食育を授業に取り入れやすいのではないか。
・学校で行われる食育に必要なのは体験だと思う。学校で食べ物を育てて、自分たちで調理して給食で食べるというようなことができたらよいのではないか。

（知事の発言）

・一番の問題は、学校の先生の手が回らないこと。だから、先生のサポート体制をしっかりと作らないといけない。単に食育の推進を学校に求めるだけでは不十分。仕組みと応援体制をセットで提示してあげることが必要。食育を起点としながら幅広い教育に繋げられる人材の授業などパッケージで政策化したい。
・長野県は田んぼや畑がたくさんあるので、そこを学びのフィールドにしないことはもったいない。教育行政の問題は、学校での物事を決断すべき立場が曖昧だというところ。教育の分権化を進め教育現場でもっと意思決定・創意工夫ができるようになるのが望ましい。

（ご意見への対応）

・まずは、学校における食育事業に協力いただける食育団体がどのくらいあるか、農政部や健康福祉部にも協力を依頼して調査を行い、食育団体に係る登録制度を創設したいと考えています。

・調査結果を踏まえ、コミュニティスクールのスキームを活用するなどして、各学校において栄養教諭を中心に食育団体の活用を検討してもらうような働きかけをしたいと考えています。

［保健厚生課］

（２）食育推進に向けた連携の構築について

（ご意見）

・長野県食育推進計画策定の趣旨に、食育活動を担う様々な関係者の協力・連携のもと、組織的に食育を推進する計画を策定するもの、とあるので、食育に取り組む熱心な子育て世代、若者のグループや団体が「信州の食を育む県民会議」の構成団体と繋がることができるようにしていただきたい。また「信州の食を育む県民会議」の中に、純粋な市民活動団体が入っていないため、情報が行き渡らない状況が発生している。

（知事の発言）

・「信州の食を育む県民会議」のあり方については課題にさせていただく。また、今の学校教育の農業体験的な探究的学びの中に食を位置付けて、それを学校任せではなくてボランティアの方たちも関わっていただくような仕組みを作れたらよい。

（ご意見への対応）

・「信州の食を育む県民会議」と市民活動団体との繋がりについては、今後の課題として検討してまいります。

［健康増進課］

（ご意見）

・県栄養士会や食生活改善推進員などが中間支援組織的なコーディネートをしてくださるとありがたい。

（知事の発言）

・食に関わる公務員や栄養士、食生活改善推進員などそれぞれの団体の集まりはあるが、横のつながりがない。バラバラな状態をまとめるのが県の役割。

（ご意見への対応）

・各保健福祉事務所では、地域の様々な団体及び関係機関の活動発表や情報交換の場として「食育フォーラム」を開催しているところですが、より一層、団体及び関係機関の繋がりを意識し開催をしてまいります。なお、開催にあたっては、プレスリリース等により周知を図っているところですが、より多くの団体に参加いただけるよう周知方法について検討してまいります。

［健康増進課］

（３）食育と地産地消の推進

（ご意見の概要）

・教育現場のみならず、様々な場所で食の地産地消を進めるために、直売所や農産物の多様性という観点を大切にしてほしい。そうした動きが農家の励みになる。

（知事の発言）

・県では「しあわせバイ信州運動」を呼び掛けている。農業の担い手を確保するため、若い人たちにも関心を持っていただきたい。

（ご意見への対応）

・直売所への農産物直売所運営案内人の派遣により、消費者ニーズに応じた農産物の計画的な生産販売や学校給食への供給など経営改善を支援しています。引き続き、地産地消、地消地産による食の地域内循環を更に推進してまいります。

［農業政策課農産物マーケティング室］

（問合せ先）
担　当　企画振興部広報・共創推進課
　　対話・共創推進係　師岡、丹羽
電　話　026-235-7190
E-mail　kyoso@pref.nagano.lg.jp